

# 令和4年度花粉測定講習会

と き 令和4年12月18日(日) 11:00～12:00

ところ 山口県医師会6階 大会議室

[報告：常任理事 長谷川奈津江]

標記講習会は、花粉測定のさらなる精度向上を目的に開催しており、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は開催を中止し、令和3年度は希望者を集めて実地研修のみを行った。令和4年度は講演1題並びに花粉測定の実技講習等を行った。

## 講演

### まぎらわしい花粉の見分け方 ～スギ・ヒノキを中心に～

山口県医師会花粉情報委員 綿貫 浩一

アレルギー性鼻炎は季節性と通年性があり、スギ花粉症は季節性で2月～4月が中心となる。1歳や2歳から症状が出る場合や、高齢者でも花粉症を発症することがある。原因を取り込まなければ症状は現れない。このため、測定機関の日々の報告がとても大切で、これが、今どの程度飛んでいるのかという目安になる。

スギ花粉の特徴はパピラで、角が生えていることである。また、細胞内容物が少しパピラ側に寄っていることが一番のポイントになる。ヒノキ花粉

はパピラがなく、まん丸で細胞内容物は真ん中に寄っているという特徴がある。また、よく雨が降った後は割れた花粉を見ることが多いが、割れたものは見分けやすい。スギ花粉のパピラ付近は壁が一番薄く、そこから割れて中身を吐き出しているように見える。ヒノキが割れている時は、パカッと割れて、トゲトゲした感じになる。

2022年はスギ花粉の飛散が前年に比べて2週間遅れたが、ヒノキ花粉はそこまで遅れがなかったため、スギ花粉とヒノキ花粉の飛散時期が重なる期間が長くなった。原因は気温で、1月末から2月初旬の寒波によりスギ花粉の飛散が遅れた。なお、秋の花粉が多い年は、大量飛散すると言われており、私が秋に観測したところ、多くの花粉が飛んでいたため、2023年は多くの花粉が飛散すると思われる。飛散時期が重なると花粉を見分けることが大変になる。

紛らわしい花粉に遭遇したときの鑑別のポイントは、視野中心部に近い場合は倍率を上げてコンデンサーを調整してみるとよい。コンデンサーを下げると解像度は落ちるがコントラストが上が



り、形態や中身が判別しやすくなる。中心から少し外れたものは強拡大すると視野から消えて見えなくなる。その時、対物レンズを少しずらして斜めに止めると辛うじて見えることがある。これは特殊技術なので、後ほど実習の際に実演する。さらに辺縁にある場合は、カウント中は強拡大にすることは不可能である。最後の手段として、場所を覚えて後で見返すことになるが、カバーガラスを将棋盤に見立てて、例えば「2七、ヒノキ？」とメモしておくで大変探しやすくなる。

なお、測定機関で観測されたデータは毎日、各施設に FAX 等で連絡があり、また、県医師会ホームページにも掲載されているので、他施設の動向を確認することも重要である。

**花粉測定の実技講習**

花粉測定の精度を高めるために、実技講習を開催した。測定の実験が浅い方は花粉測定委員長の金谷浩一郎先生の指導によりスギ、ヒノキ等の乾燥花粉を用いて実際にプレパラートを作成し、それを顕微鏡で観察して、それぞれの花粉の特徴を理解する作業を経験していただく実技講習を受けていただいた。また、講演された綿貫先生は、講演の中であった狭角を調整して花粉の見え方が変わることについて説明された。出席者間で情報交換もでき、有意義な実技講習となった。

**測定地点**

地区	地域	測定機関 (敬称略)
東部	岩 国	河田尚己
東部	岩 国	小林耳鼻咽喉科医院
東部	柳 井	周東総合病院
東部	柳 井	松田医院耳鼻咽喉科
東部	大 島	さくら薬局
東部	光	光市立光総合病院
中部	防 府	ひよしくリニック
中部	防 府	カワムラ薬局
中部	山 口	済生会山口総合病院
中部	山 口	耳鼻咽喉科かめやまクリニック
中部	小 郡	小郡第一総合病院
西部	宇 部	沖中耳鼻咽喉科クリニック
西部	小野田	山陽小野田市民病院
西部	下 関	下関市薬剤師会
北部	美祢市	美祢市立病院
北部	長 門	長門総合病院
北部	長 門	綿貫耳鼻咽喉科
北部	萩	ナカモト薬局
北部	萩	堀耳鼻咽喉科医員

(令和4年1月から)

